

1. 海況 (図2)

水温は、10月上旬から下旬にかけて平年よりも高く推移した。その後は平年並みに推移した。比重は、期間を通して平年よりも高めであった。栄養塩 (DIN) は、期間を通して少なめで推移した。

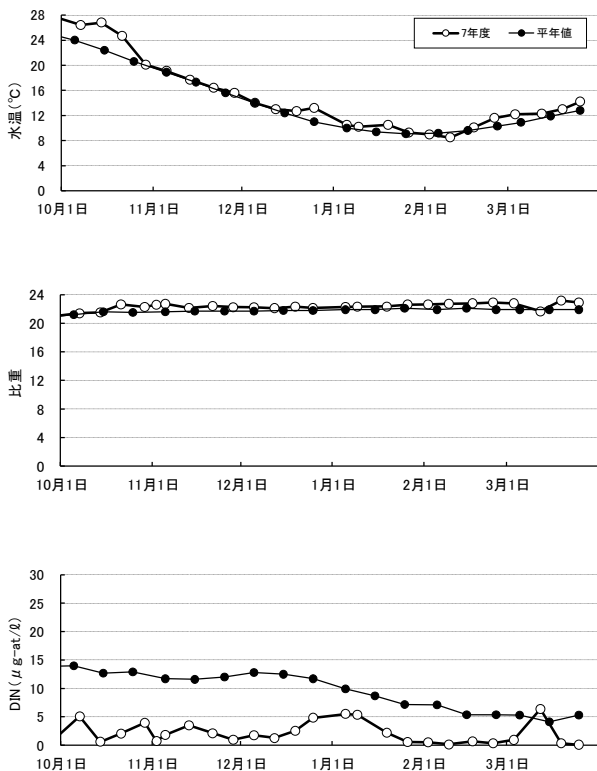


図2 2025年度ノリ漁期の水温，比重，DINの推移

○は2025年度，●は平年（1989～2024の平均）を示す

2. 養殖概況

11月3日17時（採苗日としては、4日）から開始され、7日にはほぼ終了した。採苗時の水温は19.3°Cで、過去最も低い水温でのスタートとなった。芽付きは、平均24個/視野で全体的に厚付き傾向であった。ノリ芽の生長は、水温が低くなってからの採苗であったこともあり、平均葉長は例年よりも小さかった。二次芽の着生は例年通りであった。11月中旬には栄養塩が減少しノリ芽の萎縮率が40%を超えたため、施肥を実施しながらの育苗となった（11月16日から12月1日の期間）。冷凍入庫は、11月28日から開始され、12月10日に完了した。上漁場から中間漁場にかけては色調が維持できたため、入庫網はサイズが小さめであるが平年並みから良好であった。アカグサレ病は、12月4日に東部漁場で初認された。12月

下旬にかけて一部重症化したが、その後は一進一退であった。12月3日から開始され、12月7日頃から本格化した。栄養塩も比較的安定していたことから良質な海苔が生産された。赤潮の発生はなかったものの、まとまった降雨もなく栄養塩の供給がなかったため全地区で栄養塩が低下し、色落ちが確認された。色落ちが発生した期間のうち12月3日～12月19日の期間に、定められた要領に従い施肥が実施された。網撤去は、秋芽網期の生産期間を確保するために、東中部地区と西南部地区で異なる対応をとった。撤去日は、東中部地区が1月23日、西南部地区が2月9日であった。

冷凍網の張り込み（出庫）は、東中部地区は1月27日であった。西南部地区は2月10日に在庫予定であったが、1月下旬より増加したスケルトネマ属・キートセロス属の混合赤潮により延期され、2月23日となった。摘採は、東中部地区は2月3日から、西南部地区は3月4日から開始された。アカグサレ病は、東部地区で2月4日に初認された。2月下旬以降、水温の上昇とともに纏まった降雨も重なり、被害が重症化した。壺状菌病は確認されなかった。1月5日に発生したスケルトネマ属による赤潮は1月23日に終息したものの、再び1月30日にはスケルトネマ属とキートセロス属の混合赤潮となり、全域で色落ちが発生した。加えて、ユーカンピアも赤潮化まではならないものの、1月下旬から3月中旬にかけて継続して確認された。色落ちの被害は、長期間発生した赤潮の影響により、全地区で大きかった。栄養塩添加は、東中部地区において1月31日～2月23日の期間に定められた要領に従い施肥が実施された。

共販枚数は約14.1億枚、共販金額は約285.2億円と、直近5年間の平年値と比較すると、枚数で約111%、金額で約137%であった。共販枚数及び金額ともに4年ぶりの1位となる見込みである。